

「2023年度ベトナム国家大学ハノイ校スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学工学部2年 河野 真奈

①学習成果について

最も成果を感じているのは、海外経験や国際交流に対するモチベーションの向上である。私はもともと高校生の時に国際交流プログラムに参加していたが、それ以降受験もあり国際交流にあまり意識が向かなくなっていた。そんな中で参加した今回のプログラムだったが、現地の学生や京大の学生と交流することで、国際交流の楽しさや意義を再認識することができた。現地のベトナム人学生は、日本文化や日本語を学んでいることもあり日本語がとても流暢だった。その上英語も非常に上手く話す方もいて、語学能力の高さに非常に刺激を受けた。逆に私は、英語だけの上そままで上手く喋ることができる訳ではないため、英語だけでももっと上手く喋れるようになりたいと実感した。

②海外での経験

ベトナムにいて、最も日本との違いを感じたのは人々の活気であった。何もかもが整然された日本とは異なり、道路にはバイクが溢れ、店が溢れかえり、露店では人々がぎゅうぎゅう詰めで食事をしている。日本では絶対に味わうことのできない空気感を感じることができた。それと同時に、人々同士の距離感が近く、ベトナムの人々の温かさがとても心地よかった。

今発展の最中にあるベトナムだが、やはり環境の問題は改めて感じた。人々が自転車感覚でバイクを使うことや、地下鉄などのインフラが整備されていない現状がある。バイクはベトナムの象徴であると同時に、排気ガスによる大気汚染や交通渋滞の原因にもなっている。現地の学生でも、鉄道に乗ったことが無いという学生が多かった。経済発展と環境整備という両点を両立させるためには、どのような開発が必要で、どのように人々の意識に働きかけるべきか、非常に興味深いと考えている。

③プログラム内容

今回のプログラムでは、現地の学生と共同発表を行うというものがあった。日本では何かについて発表する授業などはあまりなく、ましてやベトナムの学生と行うということで、初めは不安が大きかった。しかし、現地の学生は発表することに慣れており、積極的に意見を出してくれたためなんとか発表をすることができた。特にベトナムの学生はプレゼン作りに長けていて、スライドの作り方などとても参考にすることができた。また、プレゼン作りを通して現地の学生ともっと深い意見を交換することができたのも印象的であった。

④ 進路への影響

今回のプログラムを通じて、将来は日本だけではなくもっと海外で活躍したいと考えるようになった。私は三年次で土木工学コースに進学する予定であるものの、専攻や将来の職種などを決めかねていた。しかし今回のプログラムを通じて、日本国内で完結するのではなく、海外を拠点に活躍できる職業を選んでいきたいと感じるようになった。ベトナム派遣プログラムを通じ、新たな文化や人々と関わることの面白さを味わったからである。さらに、今後の大学生活においても、もっと海外に出て行きたいという気持ちが強くなった。これまでぼんやりと考えていた海外留学だったが、もっと長い期間海外で生活し、海外で授業を受けてみたいという思いがより明確になった。そのためにも語学の勉強や、自分の興味関心を高めるための学業に励んでいきたいと考えている。